

様式2) 中長期計画に対する自己評価 (1 ページ以内) ※計画策定から1年以上のプラットフォームのみ記入	
全体評価	S : 当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。
B	A : 当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。
	B : 当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。
	C : 当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。
	D : 当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。
評価理由	<p>今年度も引き続き多職種連携教育を継続しており、プラットフォームに参画する 5 大学の学生が大学・学部を越えて専門職連携を学び、現場で実践できる基盤づくりを行っている。合わせて、各大学の特色を生かした内容を検討し、FD・SD 研修会の開催、IR 合同研修会の実施及び報告書作成も進めた。これらの取り組みにより、学生は実践的な知識や技能を身につけるとともに、多職種連携の重要性を理解し、教職員にとっては教育・研修の質向上に役立つ機会となった。</p> <p>今年度は、事務局体制に新たに 2 大学を構成員として追加し、体制を強化することで新規の取り組みを増やした。小学生から高校生を対象とした知識の普及活動を実施し、具体的には、小学生対象の職業講座、高校生の大学研究室の訪問、高校生とその保護者を対象とした進学ニーズ調査を行うことで、医療・福祉・教育分野の職業理解が深まり、将来の進路選択に役立つ学びが得られた。来年度は、小中学生向け講座の内容を改善し、研究室訪問も更に拡大する予定である。また、今年度は web 講座の開催を予定していたが達成できなかった。来年度は参加者等からの要望を受け、現地での開催を企画することで、学習効果や参加者満足度の向上を図る。</p> <p>なお、公開講座の開催数、ボランティア活動の参加者数は目標に達しなかったため、参画団体間で計画を見直し、目標達成に向けて取り組む。このような活動を通じて、地域とプラットフォームが連携した人材育成の基盤を強化し、地域社会に貢献できる人材育成を推進する。</p>
評価に関する備考 (考慮すべき事項)	
特になし。	

様式 3) 達成目標・活動指標等（おおむね 10 頁以内）※計画策定から 1 年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
地域の高等教育機関では、地域マインドを持った医療・教育・福祉の人材育成が十分ではない。	大学間で、学生の地域課題解決型の授業の受講、教職員の授業方法の改善や能力向上の推進、調査結果の分析・比較等を行い、学部・大学を越えた専門職連携を現場で実践する基盤づくりをする。	（取組 1） 地域の課題解決を題材とした科目「アセンブリⅢ」の受講	（取組 1 の活動指標） 地域で活躍できる専門職の養成 1,000 人以上	（取組 1 の活動実績） 学部・大学の垣根を超えて、コミュニケーション力、チームワーク構築、多職種連携を学びながら、地域への視点を持った人材をプラットフォームの大学合わせて毎年 1,000 人輩出している。	A
		（取組 2） FD・SD の開催	（取組 2 の活動指標） FD・SD の実施 2 回以上	（取組 2 の活動実績） 「発達障害のある医療系学生の支援」「ボランティア合同勉強会」「アセンブリ教育ワークショップ 1」「1 コマからできる授業設計ワークショップ」等、5 回開催した。	A
		（取組 3） 施設・設備の利用者の拡大	（取組 3 の活動指標） 施設・設備の利用 10 人以上	（取組 3 の活動実績） プラットフォーム間で 11 名の学生が施設・設備を利用した。	A
		（取組 4） 共同 IR の実施	（取組 4 の活動指標） 授業以外の学習時間に関する共同 IR 研修会の実施 1 回以上	（取組 4 の活動実績） 2025 年 9 月 21 日に合同研修会を実施し、その内容をまとめた報告書を作成した。運営委員会では、参画団体間で情報の共有と議論を行った。	A
		（取組 5） ボランティア活動の参加	（取組 5 の活動指標） ボランティア活動の参加 50 人以上	（取組 5 の活動実績） 「からだヒアリング DAY」に参画大学の学生 11 人が参加した。	C

様式3) 達成目標・活動指標等（おおむね10頁以内）※計画策定から1年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
一般市民や自治体職員、医療・福祉関係者等への知識の普及が十分ではない。	一般市民に知ってほしい身近な家族の介護や地域の見守りの方法、自治体職員や医療・福祉関係者に役立つ専門的な技術に関する情報を普及する。	（取組1） 受講者のレベルに合わせた公開講座の開催	（取組1の活動指標） 公開講座の開催 10回以上	（取組1の活動実績） 「医教連携フォーラム」「食物アレルギー対応講習会開催のための指導者養成」「学校における食物アレルギー対応講習会」「小学生対象職業講座」等、5回開催した。	C
地域共生社会を形成していく子どもたちの教育ができる人材の育成や知識の普及が十分ではない。	小学校から大学まで連続した知識の普及と環境づくりをする。 小学校から大学まで連続した知識の普及と環境づくりをする。	（取組1） 地域子ども・保護者・教員等への教育の場の提供	（取組1の活動指標） 地域への教育支援活動 1回以上	「研究室訪問」「小学生対象職業講座」の2回を開催した。	A
		（取組2） 教育現場と連携した小・中学生へのweb講座の開催	（取組2の活動指標） 小・中学生を対象としたweb講座の開催 1回以上	開催無し。次年度は、参加者や関係者からの要望を受け、web開催ではなく現地開催に変更することとした。	D
		（取組3） 教育現場と連携した高校生へのweb講座の開催	（取組3の活動指標） 高校生を対象としたweb講座の開催 1回以上	開催無し。次年度は、参加者や関係者からの要望を受け、web開催ではなく現地開催に変更することとした。	D
海外に対して取組のアピールが不足しており、海外の学生に大学の魅力を十分に伝えられていない。	世界に開かれた大学を目指し、海外の学生に向けた大学紹介の機会を増加させる。	（取組1） 大学合同の外国人留学生向けのオンライン説明会の開催	（取組1の活動指標） 外国人留学生に対する合同大学説明会の実施 1回以上	本プラットフォームの目的や、各大学の概要、研究分野、特色あるプログラム、学生生活などに関してプレゼンテーションを行い、その後質疑応答を実施した。	A